



潜水艦「たかしお」の旭日旗から望む「しらせ」の全容

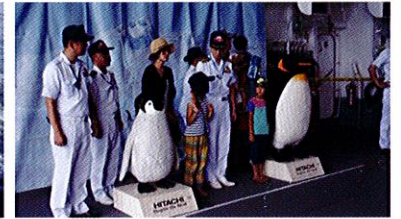


◇写真左上は潜水艦「たかしお」から見た「しらせ」。右は家族連れで賑う「しらせ」の操舵室、外景を臨みながら楽しみに浸る子供達の姿が印象的でした。

写真右下は、機動船で会場を海から見て廻る船上見学、乗船者にとっては忘れられない体験と成った事でしょう。右は、マスコットのペンギンと乗艦記念撮影風景。



限定公開のみの、潜水艦「たかしお」



次は「たかしお」ですが、潜水艦は非公開部分が多く、上部甲板のみの見学でレポートには至らず、写真のみで次の「しらせ」に向かいました。ここは全艦開放と有って相変らずの人気・何処もかしこも人で溢れ返っていました。毎回「しらせ」は、子供からお年寄り迄幅広い年代層に親しまれている人気スポットですが、その他にも音楽隊の演奏や機動船で会場を海から見て廻ったり、小学生を対象とした「マリン教室」もあれば、マスコットキャラが来場者を迎え、一緒に写真を撮ったりと、今年も「Sフエスタ」は、趣向を凝らした内容で、何より来場者を存分に楽しませてくれました。

て成りません。恐らくそれは、初代「くりはま」を凌ぐ、唯一にして最高のハイテク「艦載装備試験艦」だからでしょう。また、世界でも極稀な艦だとする一部アナリストの評価も、彼らのマニアたる所以を裏付ける格好の材料だったのかも知れません。ここに目を付けるとは流石です。「あすか」の艦番号を見ると、確かに「くりはま」の二番艦に当りますが、実質機能は似て非なるもので、規模に至っては「くりはま」の950吨に対し4倍強の4250吨と云うDD並みの大型艦です。更に、開発装備のテストを一隻で賄える上に、DDへの転用改装も可能な、言わば海上防衛の命運を握る特殊万能艦なのです。



空自・武山分屯基地のPAC-3



陸自・武山駐屯地から支援参加の装備展示